

■第3章 だす■

人が生きるためにたべることが重要なのは言うまでもありませんが、その行為とセットになっているのが、だすという行為です。

しかし、実際に古代の人びとがだした痕跡、すなわちトイレに関しては明確なことが分からないのが現状です。

トイレの痕跡として有名なものに、福岡県大宰府鴻臚館跡や岩手県の柳之御所などがあげられますが、これらはウリの種子、ハエの蛹の痕跡、おしりを拭うための簍木などがみつかったためにトイレと分かった稀な例です。

そして、今から30年ほど前に、藤原京跡でみつかったトイレとされる遺構の土壌から寄生虫卵を検出することに成功、寄生虫卵分析が確立しました。

寄生虫の生態からは、当時の人びとが食べていたものが具体的に推測できます。

また、寄生虫卵を抽出するための土壌の処理方法は、花粉を抽出する方法との共通点が多く、トイレ遺構の土壌から多くの花粉が検出されることもわかりました。

花粉は、そのもととなる植物の種類が推測できるため、当時の人びとが食べていた植物について考察することができます。

このように、過去の人びとがだした痕跡はすなわち、人びとが食べていたものの痕跡ともいえるのです。